

No.16 51. 9. 1

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389
印刷 大和印刷
八幡西区町上津役 電話 611-0007 612-0007

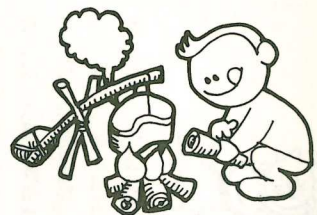
北九州市の文化財を守る会

会報



去る五月二日に開館した八幡西市民センター三階に「郷土資料室」が設置されました。市立の同種の施設としては、既存の木屋瀬資料館、歴史博物館に続いて三番目のものです。この資料室は、八幡西区にはあるが、八幡東西両区を対象とし、両区に關係の深い郷土資料を展示することにしている。展示場の面積(九九平方メートル)の關係上、大量の物は展示し得ないが、現在の所、縄文より近代に至る地域の歴史資料、及び農業用具を中心とした民俗資料約三〇〇点余が出陳されており、今後は毎年五月と十一月には特別展を行うことも計画されている。資料室は現在の所、開かれて間もないが、今後順次展示物の入替も行なわれねばならず、それには大方の協力を仰ぐねばならないし、同時にこれを価値あるものたらしめる為には、市民各位の積極的な協力と活用を期待し度い。殊に、小・中学校をはじめとする学校関係者に於いては、地域に密着した活きた教材として、機会ある毎に大いに活用して貰い度いものである。承知の如く、八幡両区、就中、西区では人口のドーナツ化が進み、旧前は農村地域であった郊外部が都市化され、石炭産業も廃絶した為、それ等の生産用具や生活用具等をはじめ、日常生活に密着した民俗資料が絶滅に瀕しており以前より早急な対策が叫ばれてはいたが、資料室の設置を契機に、既に十年以上立ち遅れてはいるが、改めて此処を中心として、焦眉の問題としてその対策に着手すべきである。幸いに、八幡両区の場合、一中学校区に一市立公民館が地域との紐帯として、原則的には存在するので、市の行政上の種々の問題は扱って置き、保管や人手の問題はあるが、蒐集品に対する根本的、永久的な管理対策を確立し、公民館がその窓口となるのも一方法ではなからうか。この事は独り八幡両区のみならず北九州市全域に亘り共通の焦眉の問題であり、「文化財を守る会」としても重大関心事でなければならぬ筈である。八幡西市民センターは相生町にあり、筑豊電鉄「穴生」より徒歩一〇分、西鉄バス「竹末」又は「二十三号アパート」より三〜四分、八幡西消防署の側にある。(能美記)

バスによる文化財めぐり



第十二回バスによる文化財めぐりは九州の京都といわれる「天領のまち」日田を訪ねることにしました。当日の説明には日田市文化財調査委員の田中晃先生を予定しています。参加ご希望の方は急ぎお申込み下さい。

日時 九月二十六日(日)雨天決行
参加資格 本会会員
参加料 一人につき二千円
募集人員 四十五人(先着順)
締切日 九月二十四日(金)
申込方法 参加料を添え直接事務局までお申込み下さい。
昼食 各自でご用意下さい。
小倉の見学時間は昼食とも約一時間半です。昼食(パン、山菜定食)をご希望の方は参加料持参のときにお申込み下さい。
集合場所 若松区役所前 出発 七時三十分
出発時間 小倉駅北口前 七時四十五分
中谷車庫前 八時十分
帰着 小倉に午後六時三十分の予定
見学先 咸宜園跡、草野宅、旧町並み、小倉田、月隈公園、代官屋敷跡、慈眼山公園、永興寺の仏像、行徳家住宅

咸宜園跡 咸宜園は儒者広瀬淡窓が文化十四年(一八一七)三十六才のとき開いた家塾。全国から門弟四千六百余人にも及び、大村益次郎、高野長英など数多くの人材を輩出した。昭和七年七月二十二日史跡に指定。なお淡窓の墓は昭和二十三年一月十四日史跡に付加

指定。
小倉田焼 慶長から元禄にかけて栄えた朝鮮系の焼物がほとんど消滅している今日、小倉田(おんた)焼だけが、ひとりその伝統を今に伝えている。昭和三十二年三月二十六日大分県重要文化財に指定。

若い力で未来を創作

大和印刷・大日本企画

電話 611-0007 613-0007
612-0007 618-0007

永興寺の仏像 昭和二十五年八月二十九日重要文化財の指定を受けた仏像八軀を見学。
木造十一面観音立像(一軀)
鎌倉時代の作。像高一米
木造兜跋毘沙門天立像(一軀)
藤原時代の作。像高二・七米
木造四天王立像(四軀)
鎌倉時代の作。像高約一米
木造毘沙門天立像(二軀)
一軀に文治三年(一一八七)の墨書銘がある。

刊行物案内

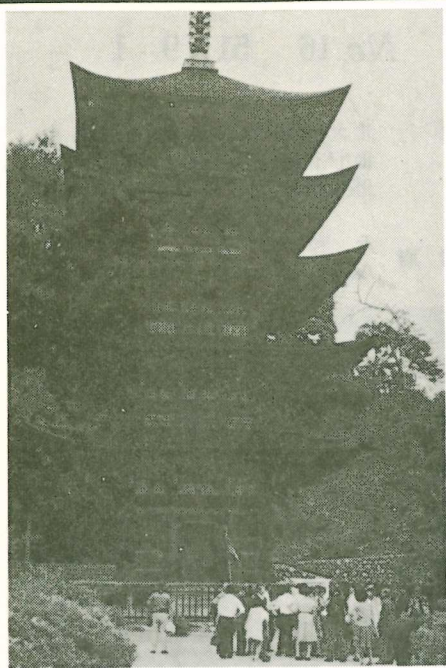
- 北九州市の文化財 刊行 北九州市の文化財を守る会編 B5版 75頁
取扱 教育委員会文化課内「事務局」電話二二三八九
北九州の歴史年表 頒価 二〇〇円
取扱 事務局
目でみる八幡の文化財第二輯 刊行 八幡郷土史会 B5 二六頁 総アートの紙 頒価 六〇〇円
取扱 八幡東区尾倉二一八― 北九州八幡信用金庫本店 理事長室(吉柳) 電話六一一〇三三一
下上津役村庄屋覚書 刊行 沖田郷土史会 B6、二二二頁、手稿版 頒価 一五〇〇円送料二〇〇円
取扱 八幡西区下上津役二丁目 大久保数光 電話六一一〇八三六
内容 大和家文書の内、「萬控帳」を全文復刻したもので、極めて優れた内容。
二〇〇部限定、残部僅少
小倉南区の古城跡 文献に出ている南区にある古城跡をぬきぎきた資料というべし
き冊子
北九州市の文化財 小倉南区を八葉にわけ、北九州市の文化財分布図を写したものを二冊合せて六百円です。残部がありませんので希望がありましたらお頒け致します。
問合せ 小倉南支部長 中村穰徳 (自) 九六二一五八六八 (勤) 九三一一〇八六四
編集だより
会報十六号ができましたのでお届けします。今回は「八幡西」が当番でした。
次回担当は八幡東支部、発行は十二月一日の予定です。
二ページの表にある如く、未だ目標の会員数に達していません。総会での決定のように各会員が一人の新会員獲得を目標にして努力して下さい。
「北九州市立歴史博物館」の入場券を同封します。利用下さい。
「バスによる文化財めぐり」の期日があまりありません。早急に申し込み下さい。
第十一回「バスによる文化財めぐり」(山口行)に参加される方、記念写真ができています。事務局にお立ち寄り下さい。

行事報告

会報十五号発刊以後、六月二十日(日)に、十五号に案内の通り「第十一回バスによる文化財めぐり」が好天に恵まれ、満員の参加者を得て行なわれ、予定通り、山口市文化財保護審議委員石川卓夫氏の案内により、常栄寺の雪舟庭園、瑠璃光寺五重塔をはじめとする「西の京」山口の文化財を見学した。

次いで、「夏期文化財セミナー」が八月四日(水)、五日(木)の両日、一三時~一五時の間、小倉の「ひびき荘」に於いて、北九州市教育委員会と北九州市の文化財を守る会の共催にて行なわれた。

四日は福岡県文化財保護審議委員筑紫豊氏による『郷土の歴史と万葉集』の講演、五日は北九州



《国宝 瑠璃光寺 五重塔》

市文化財保護審議委員米津三郎氏の別掲の『小倉城炎上』の講演が行なわれた。米津氏の講演内容は大略、別掲の同氏の原稿の通りですが、筑紫氏は次の項目についてのものとした。

- 一、斉明女帝の西下と万葉歌人
二、対馬、吉岐、筑紫に配置された防人の歌
三、水城、大野城、椽城と万葉集
四、大宰府への海路
五、韓国への海路
六、壬申の乱、高市皇子、柿本人麿
七、香春と企救の歌
八、県内万葉歌碑めぐり

随想

枝光の空が光った……

大里には金山、金山ノ口、金堀、小金塚、金鑄小路、など鉱山に關連した小字名が多い。白銀町や黒金町などの町名もある。延宝五年頃には銅山で繁昌したという記録もある。大正の初期には大里寺内の山中から黄金色に輝く銅鉱が掘り出され、以に詰めて馬車で盛んに搬出されていた。終戦前までは当時の火薬庫がまだ残っていた。

寛永の始め細川公が小倉藩主の頃、大里新町の山中で鉄鉱石を発見し採掘に着工したが、肥後に転

落となり中絶していたそうである。明治の中期になり鉱山に熱心な久良知重敏氏が、その跡を探し求め山中に古穴二ヶ所を発見され、この鉄鉱山に力を注がれ、柳ヶ浦(大里の旧名)に製鉄所誘致の運動まで起されたそうである。当時は政府も農商務次官の金子堅太郎が委員長となり製鉄所用地の調査が行われていた時期でもあったからであろう。

ところがそれが効を奏して全国の有力候補地の中でも最有力候補地として、広島安芸と遠賀の八幡村、そして柳ヶ浦の三ヶ所が残った。その中でも柳ヶ浦つまり大里が最も有力な所となっていたというから、今から考えると誠に嘘のような話である。今でも大里新町砕石場の頂上近くには当時の遺跡ともいべき四面鉄鉱石の大きな洞窟がある。もし大里に製鉄所が誘致されていたとしたら大きな変化が起っていたであろう。

この事は製鉄文化七二号にも詳細に掲載されている。子供の頃夜間に屋外に出て見ると時々西の空が広く強くピカピカと光るのが見えていた。「あれがのう、枝光の製鉄所の鑛鉱の火だ……今蓋をあけたところじゃ」と教えられたことを思い出す。昔の鑛鉱はどんな風になっていたのだろうか。(51・8・7)

51年度会員数及び会費納入状況 8月23日現在

Table with 7 columns: 種別, 区別, 50年度会員数, 51年度予定会員数(増加率), 会員数, 納入, 未納入. Rows include 一般 (門司, 小倉北, 小倉南, 若松, 八幡東, 八幡西, 戸畑, 市外), 小計, 賛助 (法人, 学校, 団体), and 合計.

支部だより

若松支部

若松支部では、去る五月二十七日若松中央公民館で座談会を開いた。会員三分の一の出席をみて、有意義な会合であった。中心課題は遺跡や文化財のない若松であるが個人で貴重な資料や文化財を所持しているものと考えられるので総力を結集してこれをさぐるという事であった。他は会員の増加対策や文化財を守る事について意見の交換などを行い頗る有意義であった。次回は十一月の予定である。(若松支部長 中山 司)

小倉南支部

昨年支部が設立されて以来三回の役員会に続き、去る七月二十九日(木)、小倉南市民センターの会議室で第一回総会を開きました。その間の経緯を簡単に報告します。

第一回役員会

顧問の春永先生の呼び掛けにより五月二十七日砂津の春永ビルにて第一回の役員会を開催、次の事を甲合わせました。(1)会員の勧誘と確保 (2)現在首根方面が手簿であるので

貫の勝本氏、沼の千代丸氏を理事に推薦し、会の強化を図る。(3)小倉南区の文化財地図を作る。(4)講演会や各地区の文化財めぐりを計画する。(5)役員会の費用は自分自弁の事。(6)南支部の会則の作製

第二回役員会

六月十日、春永ビルに事務局柏木さん、新理事をも迎え開催。(1)市発行の文化財地図を参考に文化財地図を作製、配布、不明な事が多いので解説の必要性を痛感した。(2)古城趾、神社仏閣と研究を進め、最終的には南区の文化財を纏めて刊行し度い。(3)一〇〇名の会員の確保(4)資金計画(5)七月下旬に第一回総会を市民センターで開催する。以上の目標を協議しました。

第三回役員会

七月二十九日、ヤクルトの会議室を借り、主として総会対策を協議、総会当日の講演を春永氏に依頼すると共に、文化財地図と古城趾の資料の印刷を注文する事にしました。

第一回総会

予定通り七月二十九日の午後、事務局の原さんをも迎えて、市民センター第一会議室で開催、十六人が参集した。開会のことば、支部長挨拶、顧

問挨拶、役員紹介、会員の自己紹介に続いて議長を選出し協議懇談に入った。南区には国指定(二)、県指定(十一)、古城趾(十二)、祭(四)、建造物(四)石・碑外(八)、植物(四)、古墳等(二)、石棺等(九)、遺跡(三)、その他(三)の文化財があるが、先ず古城趾の検討より始めた。市の文化財地図には十二ヶ所ですが、古い文献より抜き出した資料には三十五ヶ所もあり同域異名も幾つかあると思うが皆で研究し、次いで神社仏閣へと進めて行き度いと思っている。

火野葦平

文学散歩道案内

- 1 若戸渡船場
2 玉井組事務所跡
3 丸柏百貨店
4 河伯洞
5 玉井組事務所跡
6 安養寺
7 佐藤公園
8 白山神社
9 突貫亭跡
10 河童地藏・高塔山
11 文学碑
12 高野山別院
13 金比羅山
14 若松駅
15 若松小学校
16 川太郎跡
17 旭座
18 毎日座跡
19 若松クラブ
20 連歌町跡
21 吉田磯吉邸跡
22 若松市役所・公会堂跡
23 恵比須神社
番外 島村ギンの墓
番外 藤木棧橋

市教委では北九州市の生んだ現代作家、火野葦平の人となりを知り、かつその文学を広く紹介するため、作品の舞台となった次の場所を選び文学散歩道をつくりました。

北九州市の文化財を守る会 入会案内
◇ 問合せ 教育委員会文化課内「事務局」 電話 582-2389
◇ 会費(年額)
1. 一般会員 1,000円
2. 賛助会員 1口 10,000円
3. 団体会員 3,000円
但し、学校関係に限り 1,000円
◇ その他
1. 会の各行事に参加
2. 「会報」を配布
3. 本会の事業
イ. 文化財の保存、保護に必要な事業
ロ. 文化財の理解を深めるための啓蒙運動
ハ. 地域の愛護団体の育成その他の必要事業

夏明文化財セミナー 『小倉城炎上』

米津三郎

(一) 細川氏の入部

小倉は関門海峡を扼する九州咽喉部に在り、筑前街道、豊後街道の分岐点という要衝の地であるため、古くから城が在ったと伝えられている。永禄十三年(一五七〇)に高橋鑑種が居城した小倉城、豊臣秀吉の九州平定によって天正十五年(一五八七)この地に封ぜられた毛利勝信の小倉城は、のちに細川忠興が築城した小倉城の本丸、松の丸、北の丸の地域内であったと考えられ、城下町も紫川から大門辺ぐらまでの小さなものであったようである。高橋鑑種以前の小倉城は、その所在地も規模も確然としない。

(二) 小笠原氏の入部

慶長五年(一六〇〇)関ヶ原合戦の功勞によって豊前一国と豊後二郡の内三十九万九千石の大名となった細川忠興は、当初中津城を居城としたが、慶長七年(一六〇二)から大規模な小倉城の築城にかかり、同年秋には中津から小倉に移ってきた。小倉は要衝の地であるとともに、関門海峡ひとつで隣りあった防長の毛利氏は関ヶ原合戦における石田三成軍の盟主であり、徳川に忠勤を励む細川忠興は毛利氏に対する備えを敵にす

るためにも、居城を中津から小倉に移したものと考えられる。細川忠興の築城した小倉城は従来の小倉城に比べて、はるかに規模の大きなものであった。足立山麓から流れて紫川に合流する寒竹川の水を、三本松付近から海に通ずる濠を掘って、これを東側の外濠とし(現在の砂津川)、この濠と紫川の間を東郭として新たに開発した。西側は板櫃川を外濠とし、南側は現在の十三間道路の少し内側という広大なものであった。そして五層六階の天守閣、その最上層は黒段と呼ばれる黒道り、各層の屋根に全く破風を持たない特色ある天守閣が聳えていた。

(三) 嘉永・安政期の藩政改革

以来、小笠原氏は二〇余年間この小倉城に在ったが、天保八年(一八三七)正月、出火して小倉城が全焼した。約二年を費して城の諸建物は完成したが、天守閣は再建されなかった。既に天守閣の戦術的意義は失なわれていたが、藩の財政難は天守閣の再建をする余裕を持たなかった。隣りの長州藩では村田清風が藩政改革を成功させ、商品流通によって得られる利益を、藩の専売制度を拡大して藩が握り、藩財政強化の基を確立しつつあった。薩摩藩でも調所笑左衛門が藩政改革を行ない、特に砂糖の生産と販売を藩が抑え、莫大な収入を得る道を講ずるのに成功していた。小倉藩の場合、藩の財政収入を増加させ

る道は農民からの年貢の増徴と大商人からの献金が唯一のたよりであり、このため農民は騒動し、天保七年(一八三六)には筑城郡の郡奉行が農民の窮状を見かね、独断で年貢を猶予して切腹して死んでゆくというありさまであった。だから天守閣の再建など、とても出来ることではなかった。ただ、天保期における長州藩、薩摩藩の藩政改革の成功と、窮乏化をたどる小倉藩の差が、幕末維新期の両者の行動を決定する経済的基礎となるのである。

(四) 嘉永・安政期の藩政改革

嘉永年代にはいると外国船の渡来は頻繁になり、海防充実と富国強兵が最大の課題となってくる。嘉永五年(一八五二)小倉藩では島村志津摩が家老になり、翌年には小宮民部が家老になる。この二人は海防充実と財政確立に腐心する。小倉織の生産を高め、国産物として茶、蠶、蠟、菜種子を奨励し、田川の石炭を藩自ら他藩に売り込み活動をし、富山の売薬商人が領外に持ち出す貨幣が多いのをこれを防止するため薬園を設けて薬を製剤して、富山の売薬人を領外に追放しようという計り、また呼野金山を再興するなど殖産興業政策を推進した。嘉永七年からは種痘を実施し、文武を奨励し、西洋型帆船を購入するなど、時代の進運に追いつこうと努めた。島村と郡

代大名小笠原忠真が播州明石から移ってきた。当時九州には譜代大名としては日田六万石の石川忠総ただ一人で徳川勢力の九州浸透は甚だ弱かった。小笠原忠真の小倉入部と同時に、弟の忠知(杵築四万石)と松平重直(龍王三万七千石)、甥の小笠原長次(中津八万石)が周辺に大名として配され、旧細川領の大部分を譜代大名小笠原一族で占めることになった。小笠原一族の北部九州入部は、徳川勢力の九州進出が実現したことを物語るものであり、ひいては徳川の全国支配の確立を意味する重要なできごとである。

(五) 小倉城炎上

このとき京都では公武合体派がクーデターを起し、長州藩と尊攘派公卿を京都から追放した。八月十八日のことである。この八・一八政変の成功で小倉藩はようやく愁眉をひらくことができた。長州藩も田野浦から撤退した。五月ごろから長州藩は英彦山と組み、英彦山の社僧に拳兵させて小倉藩を内部から突き崩す計画をしていたが、この陰謀が洩れ、小倉藩は十一月兵を英彦山に差し向け、座主以下陰謀に加った社僧たちを捕えた。

代の河野四郎は過去五年間の郡・大庄屋・庄屋の諸帳面の精査をして藩政改革の基礎を求めようとするなど、積極的な姿勢をとることになった。だが、島村と小宮は意見の対立が激しく、これが藩論の統一を妨げ、切角の積極策も容易に実を結ばなかった。

(六) 小倉城炎上

文久三年(一八六三)尊攘派の勢いに押されて上洛した將軍家茂は、遂に攘夷期日を五月十日と朝廷に回答した。幕府から各藩に対して「攘夷の儀、五月十日拒絶すべきを達す。銘々自国海岸防禦筋いよいよ密に相備え、襲い来り候節は掃蕩いたし候様いたすべく候」という達しがされた。小倉藩では文久三年にはいると海防充実の施策を講じ、海岸線各所に砲台を完成し、外国と戦う場合の動員編成も終っていた。三月には庄屋格以上の農民から農兵を募り、千四百余人の農兵隊が組織され、

番所の勤務などについていた。大砲の製造や砲弾の製造など防衛力を強化していた。

攘夷期日の五月十日門司に碇泊していたアメリカの汽船を長州側は砲撃し、以後、外国船が関門海峡を通るたびに長州側は砲撃を加えた。六月五日にはフランス軍艦の報復攻撃を受け、長州側砲台は壊滅し完成した。これらの場合小倉藩は外国船砲撃をしなければならなかった。このため長州藩は攘夷を実行しない小倉藩を勅諭違反として責め、攘夷実行を迫った。

小倉藩は「襲い来り候節は掃蕩」するが、単に海峡を通過する外国船を攻撃するのは間違っていることを主張した。また勅諭違反というが、將軍は天皇から執政を委任されており、その將軍の命にしたがうのが教慮にかなう道であることを主張した。長州藩は朝廷に小倉藩の態度を訴え、朝廷から直接小倉藩に攘夷実行の命がくだった。しかし小倉藩としては譜代藩は幕府を擁護の拠点であるからつねに幕府第一を心得としており、朝廷から直々の命令は筋違いであり、あくまで武家の棟梁である幕府の命を至上のものと考えていた。

どうしても小倉藩が慮夷実行をすると言わぬため、長州奇兵隊員百人余りが小倉領の田野浦を占領して砲台を築き、海峡両側から外国船を攻撃する態勢をとった。田

野浦の長州兵を追い払うと西藩の武力衝突となり戦争が起る、これは幕府が横浜鎮藩や生麦事件の賠償問題などで外交交渉をしているときに内乱を起すことになり、幕府に對し申し訳ないことになるという理由から、あえて田野浦占領の長州兵の追払いをしなかった。

小倉藩内にも攘夷論者はいたが、家老小宮民部はこれら攘夷論者の意見をよく抑えた。攘夷実行をしない小倉藩に、尊攘派や朝廷から圧力がかかってきた。京都では長州藩を中心とする尊攘派が猛威をふるい、朝廷は小倉藩が久留米藩に貸している大里船屋敷に砲台を築かせたり、小倉藩を五万石に減らして東北に移すという動きさえあった。そして西國の攘夷視察を名目とした勅使が山口に着くと、長州藩はさっそく小倉藩に使者をだし攘夷実行の確答を迫った。勅使を擁する長州藩の使者に對し、これまで同様な回答はできず、やむなく攘夷実行を回答せざるを得なかった。

幕府は小倉藩に田野浦占領の長州兵を撃退するよう指示し、同時に中津、福岡、広島各藩には小倉藩を応援するよう命じた。小倉藩は勅使を擁する長州藩を攻めるわけにゆかず、政令が二途に出ないよう幕府の政治権力強化を建白した。いまや小倉藩は朝廷と幕府の間にはさまって進退きわまり、

まことに苦しい立場に置かれた。このとき京都では公武合体派がクーデターを起し、長州藩と尊攘派公卿を京都から追放した。八月十八日のことである。この八・一八政変の成功で小倉藩はようやく愁眉をひらくことができた。長州藩も田野浦から撤退した。五月ごろから長州藩は英彦山と組み、英彦山の社僧に拳兵させて小倉藩を内部から突き崩す計画をしていたが、この陰謀が洩れ、小倉藩は十一月兵を英彦山に差し向け、座主以下陰謀に加った社僧たちを捕えた。

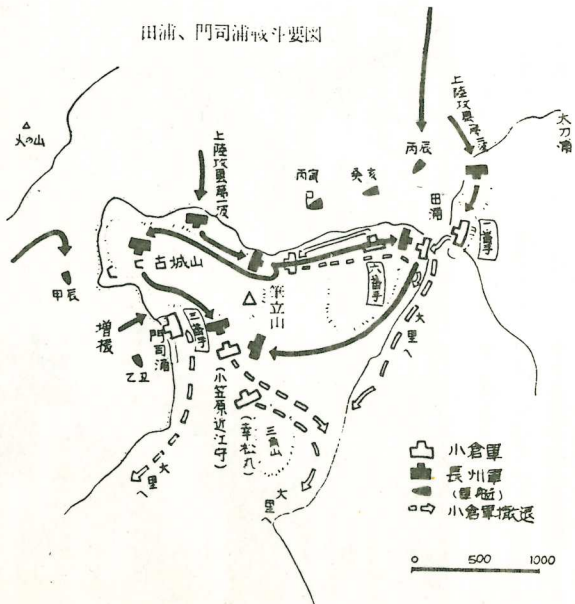
攘夷問題では尊攘派の圧力をしりぞけ幕府の内慮を尊重して行動した小倉藩の態度は、幕府から賞められ小倉藩の労苦は酬われた。そのご長州藩では武備を増強し、元治元年(一八六四)年七月公武合体派が握る京都の政権を奪いかえそうとして兵を進めた。禁門の変である。しかし会津、薩摩の連合軍に蛤門の戦いで敗れ、皇居に向って発砲した理由で朝敵となり、ここに長州征討の勅命が下った。小倉藩は長州攻撃の西側第一線となり諸藩の兵も集った。このとき英米蘭仏の四カ国艦隊18隻が前年の長州藩の外国艦砲撃の報復にやってきました。小倉藩は艦隊の長官と会見し、内戦に干渉せず直ちに退去するよう要求した。しかし外国

艦隊は領土の野心のないことを説明してこの要求を拒絶、長州側を攻め長州藩は完敗した。四囲を諸藩の兵に囲まれた長州藩は禁門の変の責任者を斬り、幕府に恭順の意を表わしたので、争わずして長州攻撃軍は囲みを解いた。

慶応二年(一八六六)六月幕府の下関方面攻撃の総督である老中小笠原老岐守長行も小倉に着き、長州藩の田野浦攻撃をもって戦端が開かれた。小倉には細川(熊本)、奥平(中津)、有馬(久留米)、立花(柳川)それに親族の安志と支藩の千束の各藩兵が集った。し

去するよう要求した。しかし外国

田浦、門司浦戦要図



(案浦照彦「鎮西の風雪」より)



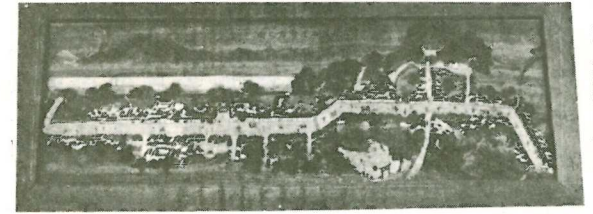
箱、矢立、銅製銅壺、天秤、こね鉢、碓、燭台、糸車、ヤゲン、自在、鉄釜、葉用チキリ、水車、枅、鷹爪、千歯、鋤、蓑、カスリ、モーガ、机、誘蛾燈、風籠、半切、背負子、石臼、脱穀機、製縄機、苧編機、織機、俵編機等約七〇点が能美千秋、加瀬康作、波多野直人、黒野スエノ、清水照子、岩崎教馬、亀田義久、中島時雄、柴田新、安藤藤枝、平野勇作、香月正義、小田伝造、上田義孝の諸氏より出陳されている。

八幡西市民 センター 郷土資料室

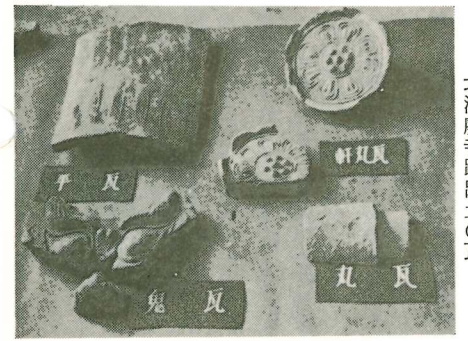
一面にも掲載の如く、去る五月二日に八幡西市民センターが開館し、既に四ヶ月が過ぎた。その間借用期間の関係で陳列展示品に若干の変更があったが、出陳物の若干を紹介すると次の様なものがある。 環状三鈴(岡田神社) 社伝によると、天慶の乱の藤原純友追捕のために西下した近衛少将小野好古が戦勝を祈願して岡田宮に奉納したと伝える三鈴。(返却) 井上之房神像(春日神社) 北九州市指定文化財「絹本着色黒田二十四騎画像」の内の一冊で、福岡藩お抱持師尾形洞霄(愛遠)の筆になるもので、藩より黒田宮に奉納されたもの。井上周防之房は元和の一國一城の台命により破却された黒崎城の城主で、墓は岡垣町高倉の龍昌寺にある。尚、二十四騎図も添附されている。

は、黒崎は福岡藩で唯一つの渡海船(貨客船)の出る湊で、下関や大阪に客や貨物を積み出していた山札 藩政時代は山は殆どが官山であったが、薪取りや抹伐りの為山に入る為の鑑札で、一村に数枚が有料で配布されていた。

馬上の徳川家康公像(香徳寺) 文祿の役に際し、肥前名護屋に赴く戎衣の家康に、穴生弘善寺六世の僧信譽存道が十念を授け、香徳寺を建立した事に因るもので、他に「家康公画像」、「香徳寺縁起」も出陳されていた。



木屋瀬宿図絵馬



北浦院寺趾出土の瓦

切ふ 旅人が短期に滞在する時に発行した滞在許可証。長期の時は「提札」という板札を用いた。 木屋瀬宿図絵馬(木屋瀬須賀神社) 木屋瀬の画家麻生東谷が嘉永六年に描いた木屋瀬の絵馬(護国院に現存)を模写したもので、黒崎宿とは異なり、古図の見出しされていない現在、宿場時代の様子を描いた唯一のもの。 銅製経筒(聖福寺) 香月白岩山聖福寺出土のもので「正和五年」(一一一六)の銘がある。 陶製経筒(吉祥寺) 銅製の蓋が

市内文化財めぐり

- 文化財保護強張週間の行事の一環として、下記の通り文化財めぐりが行なわれます。
日時 11月2日(火)9時30分出発
先行 門司区、小倉北南両区方面の文化財見学
参加料 500円
募集人員 70名
申込締切 10月26日(火)
申込 希望者は参加料をそえ文化課内事務局まで
その他 昼食は各自準備下さい。雨天決行 会員以外でも参加自由 見学先等は同封の案内状を参照。

Table with columns for field (分野), name (氏名), and appointment status (順不同/敬称略/再任/新任). Lists names like 飯田久雄, 米津三郎, 能美安男, etc.

案内

- 第12回バスによる文化財めぐり
とき 9月26日(日) <別掲>
北九州市産魚類化石展-化石から見た北九州-
とき 10月7日~10月20日 会期中無休
ところ 北九州市立歴史博物館
開館時間 午前9時40分~午後6時 (入館は5時30分)
観覧料 大人50円(高校生以上) 小人30円(小中学生)
展示 魚類化石約150点その他写真パネル
平尾台清掃 <別掲>
とき 10月31日(日)
雨天の場合11月7日(日)
集合時間 午前10時
集合場所 平尾台バスセンター前広場
ロダン展
とき 10月28日~11月21日
ところ 北九州市立美術館
観覧料 大人600円(500円)学生400円(300円) 小人200円 ()内前売券
前売券 市内プレイガイドで発売
第2回バスによる市内文化財めぐり
とき 11月2日(火) <別掲>
郷土史料室特別展(予定)
とき 11月上旬
ところ 八幡西市民センター
内容 未定

Advertisement for 'Shirishi Shoten' (白石書店) and 'Satsukamera' (砂津カメラ). Includes address: 北九州市小倉北区黒住町商店街9-22 and phone numbers.